

わくわく交流 ゆたかな放課後

『異言語異文化で特別な支援が必要な

子どものための交流支援事業』

平成21年度 総合的な放課後対策
推進のための調査研究受託事業



春祭り、夏祭り、クリスマス、つくりえと各発表会風景



こどもの文化研究所

日本に居ながら異言語異文化で特別な支援が必要な子どもに、
ブラジル人学校と協力して放課後の居場所を用意し、

1 癒しや交流学習の場と、より適切な就学相談の機会を提供する。



自言語・自文化の中で放課後をのびのびと過ごすことのできる居場所の提供



アサヒポルトガル語教室（こどもの文化研究所代表が理事を務める組合立のブラジル人学校）内に、日本の教員ボランティアとブラジル人教師とが両面から支援する「放課後交流クラブ」を開設

日本に居ながら異言語異文化で特別な支援が必要な子どもに、
ブラジル人学校と協力して放課後の居場所を用意し、

2 生徒数減少に悩むブラジル人学校を活性化し、子どもの居場所の再生を図る。



生徒数減少に悩むブラジル人学校活性化による、放課後の子どもの居場所の再生



ブラジル人学校を去り、日中や放課後を留守番で過ごす子どもに対する、「放課後交流クラブ」や「特別支援コース」への呼び戻し

放課後に造形や音楽活動に取り組む他団体に参加を呼びかけての学習発表会や交流会の開催

日本に居ながら異言語異文化で特別な支援が必要な子どもに、
ブラジル人学校と協力して放課後の居場所を用意し、

3 公立学校や園に馴染めない子どもに、より望ましい就学を提供する。



ハンディを持つ子どもが、自言語自文化による特別支援教育を受け、
放課後を健常の子どもとのびのびと過ごすことのできる教育環境作りと支援



アサヒポルトガル語教室に、協力して「特別支援コース」を開設
特別支援コース担当者（特別支援コーディネーター）養成
午後の時間を「放課後交流クラブ」で過ごすことによる、健常な子どもとの交流

日本に居ながら異言語異文化で特別な支援が必要な子どもに、
ブラジル人学校と協力して放課後の居場所を用意し、

4 ブラジル人学校職員の研修の機会を創設し、特別支援教育の整備を促す。



ブラジル人学校の特別支援教育の整備



特別支援コーディネーターを核とした特別支援教育研修会の開催



「つくりえとーこどもの美術交流展」交流風景

こどもの文化研究所

代表 松下 壽男

〒437-1505 静岡県菊川市高橋2440-1

TEL・FAX 0537(73)7100

Escola Brasileira Sol Nascente

(アサヒポルトガル語教室)

校長 Cenira da Silveira Maia Horita

(堀田 セニラ)

〒437-1505 静岡県菊川市高橋3695-18

TEL・FAX 0537(73)6146

つくりえとパンフレット

ごあいさつ

今年も、みなさんが楽しみにしていた、つくりえとがやってきました。私たちは、この日をめざして作品作りにとりくんできました。今日は、いろいろな人と交流し、展示されている作品を見て、これからの制作に役立つことを学べたらいいなと思っています。「美術でともだち！」を合言葉に、私の大好きな美術で、地域の人たちとの輪を広げたいです。みなさん、助け合いを大事にし、つくりえとを成功させましょう。

実行委員長（岳洋中美術部長）窪田志保

「美術でともだち！」そして「わくわく交流・ゆたかな放課後」を合言葉にしたつくりえとの活動は、国民文化祭2009 IN きくがわジュニア創造祭のジュニアリーダーとして、また文科省放課後支援モデル事業の発表の場として認められ、過去7年間の活動の成果が大きく実ってまいりました。その分、事務局は、ますます忙しくなりましたが、みなさんの「つくりえと、楽しみにしているよ」という声を聞いて勇気づけられました。長引く不況で各方面からの支援も乏しくなりましたが、知恵と力を合わせて開催に漕ぎ着けることができ、子どもたちと共に喜んでいます。こどもの夢の詰まった作品をごゆっくりご覧ください。

また歴史街道館には、ジュニア創造祭美術展の入選作品が展示されていますので、ぜひ、そちらもご鑑賞ください。

つくりえと実行委員会事務局
連絡先 090-7436-2951（松下）

♥開催に際しまして、スタジオワン福田様、たこまん様から、温かいご支援をいただきました。

美術でともだち！

第8回

つくりえと

—こどもの美術交流展—



2月20日つくりえと集合写真♥これからパーティー会場へ
平成22年2月20日（土）～2月28日（日）

●
菊川市中央公民館展示ギャラリー

つくりえとパンフレット

Escola Brasileira Sol Nascente (アサヒポルトガル語教室)

美術を楽しみながら、ポルトガル語で勉強をしている、ブラジル人学校です。今年も、こどもの文化研究所と力を合わせて、文部科学省放課後活動支援モデル事業に取り組み、つくりえとが、その発表の場になりました。おおらかで豊かな、こどもたちの作品をお楽しみください。 連絡先 0537 736146

大浜中美術部

大浜中の美術部は、1年生5人、2年生6人の計11人です。美術部の上下関係は、あまり厳しくなく、先輩、後輩の良い関係を築いています。部活でやっていることはイラスト画を描いたり、光のオブジェの作品作りです。コンクールや展示会の時など一つのを全員で作るのは意見が合わなかったり大変ですが、皆で協力、団結してがんばっています。このように私達の部活は、1年、2年が仲良く団結できる部活です。

岳洋中美術部

私たち岳洋中学校美術部は、2年生7人、1年生6人、計13人で活動しています。活動内容は、光輝掲示という学校に飾る大きな掲示を作ったり、ポスターやイラストなどの個人制作をしています。今回つくりえとでは、イラストや切り絵の作品が多いです。いろいろなコンクールにも挑戦して、3年間の活動のうち一度は入賞することを目指して、これからも活動をがんばっていきます!!

菊川西中美術部

私たち菊川西中美術部は、3年生5人が引退した後、2年生1人と1年生5人で活動しています。人数は少ないですが、行事の時にはステージに飾るスローガンを作成したり、秋に行われた国文祭に向けて「お茶がある風景画」にチャレンジしたり、充実した活動をしてきました。普段はイラストを中心とした自由制作を行っています。この「つくりえと」に向けて、今回初めてランプシェイドの制作に取り組みました。

Centro Educacional Sorriso de Criança

ブラジル人学校のソヒーズ・ジ・クリアンサです。午後の授業は選択制で、美術にも取り組んでいます。授業で描いている作品を展示しています。3月に完成させる予定なので、未完成の作品もありますが、ぜひ見てください。

常葉菊川中

毎年1年生が授業で作る「ベニヤ人」を会場のいろんなところに展示しました。ベニヤ板に描いた絵を木工ミシンで切り抜いて、アクリルガッシュで色を塗りました。それをレンガとドッキングして好きな場所へ置くのです。きっとその場所が絵になりますよ。会場の中から、ベニヤ人たちを探してみてください。

ドリーム・フィールド

浜松市にあるフリースクールです。御前崎市、掛川市、袋井市、磐田市、浜松市などから、計40名ほどが通っています。高校は静岡中央高校通信制に在籍しながら、スクールでお勉強しています。つくりえとの交流会では、バンド演奏もお聞かせします。

連絡先 053 422 5203

浜岡中美術部

私たち浜岡中美術部は、7名の参加です。少人数ですが、1人1人が個人の作品に集中して取り組んでいます。今年は、木の板に描いた絵を展示します。また、オルゴール作りにも挑戦しました。ほかにも合唱祭のときにステージに飾る大きな絵や、学期ごとのテーマに合ったステージ画というものも描いています。みんなが協力して、仲良く活動しています。

原野谷中学校美術部

私たち原野谷中美術部は、2年生4名、1年生3名の部活です。1年、2年と力を合わせて、活動しています。今年は、切り絵に取り組みました。切り絵の特長を生かしたデザインを考えたり、ていねいに仕事を重ねたりして、完成させました。私たちの力作をご覧ください。つくりえとで、他のグループの取り組みを学んで、今後の活動に生かしていきたいと思います。

夢みるマンガ家・イラストレーター集まれ!

「夢見るマンガ家・イラストレーター集まれ!」は、今年10年目になりました。マンガ家を目指す子や、絵が好きな子、中学生で美術の方面の進学を考えている生徒、イラストに興味がある子など一緒にみんなで楽しく絵を描きましょう!お問い合わせは、落合までご連絡下さい。

連絡先 090 7300 4794

平成21年度 総合的な放課後対策推進のための調査研究受託事業

放課後活動支援モデル事業報告書

特別に支援が必要な子ども（外国籍等）の活動機会の充実のための取組

『異言語異文化で特別な支援が必要な
子どものための交流支援事業』

こどもの文化研究所

■事業のテーマ

異言語異文化で特別な支援が必要な子どものための交流支援事業

■実施期間

平成21年4月1日から平成22年3月31日

■事業の目的

平成21年2・3月の短期間、緊急的に実施することができた事業の成果と課題に鑑み、

日本に居ながら異言語異文化で特別な支援が必要な子どもに、ブラジル人学校と協力して放課後の居場所を用意し、

- 1 癒しや交流学習の場と、より適切な就学相談の機会を提供する。
- 2 生徒数減少に悩むブラジル人学校を活性化し、子どもの居場所の再生を図る。
- 3 公立学校や園に馴染めない子どもに、より望ましい就学の場を提供する。
- 4 ブラジル人学校職員の研修の機会を創設し、特別支援教育の整備を促す。

■事業の実施内容

1 自言語・自文化の中で放課後をのびのびと過ごすことのできる居場所の提供

アサヒポルトガル語教室（こどもの文化研究所代表が理事を務める組合立のブラジル人学校）内に、日本の教員ボランティアとブラジル人教師とが両面から支援する「放課後交流クラブ」を開設し、以下を実施する。

- (1) 日本人も外国人もハンディを持った子ども：自言語自文化のままのびのびと造形活動等をして過ごし、自然に交流できる自由時間
- (2) 公立学校在籍者：宿題の指導を中心とした予習復習と教育相談
- (3) ブラジル人学校在籍者：日本語会話と日本語の基礎的学習
- (4) 不就学者：日本語会話および就学相談や就学準備学習

2 生徒数減少に悩むブラジル人学校活性化による、放課後の子どもの居場所の再生

アサヒポルトガル語教室と協力して、以下を実施する。

- (1) アサヒポルトガル語教室を後援する学校組合や保護者、学校職員の自助努力を促す研修会の開催
- (2) ブラジル人学校を去り、日中や放課後を留守番で過ごす子どもに対する、「放課後交流クラブ」や「特別支援コース」への呼び戻し
- (3) 説明会や教育講演会を通し、特別な支援が必要な子どもへの理解を深め、保護者が有料の正規の授業と無償の「特別支援コース」や「放課後交流クラブ」との違いを十分に理解した上で、一層の自助努力の促し
- (4) 放課後に造形や音楽活動に取り組む他団体に参加を呼びかけての学習発表会や交流会の開催

3 ハンディを持つ子どもが、自言語自文化による特別支援教育を受け、放課後を健常の子どもとのびのびと過ごすことのできる教育環境作りと支援

アサヒポルトガル語教室内に、協力して「特別支援コース」を開設し、以下を実施する。

- (1) 教育委員会主催の研修会等に参加しての、特別支援コース担当者（特別支援コーディネーター）養成
- (2) 就学指導委員会の審議に基づき、「放課後交流クラブ」を足掛りにしながら、公立学校・園や市教委と連絡を取り合って進める「特別支援コース」への就学相談
- (3) 未就学児童を「放課後交流クラブ」に招き入れての、適切な就学相談
- (4) 午後の時間を「放課後交流クラブ」で過ごすことによる、健常な子どもとの交流

4 ブラジル人学校の特別支援教育の整備

アサヒポルトガル語教室の特別支援教育を整備するために、協力して、以下を実施する。

- (1) 特別支援コーディネーターを核とした特別支援教育研修会の開催
- (2) 外部講師を招いての、研修会や教育講演会
- (3) 個別の支援計画の作成や家庭訪問等の特別支援態勢の充実
- (4) 精神科医との連携

■事業の効果・成果

- 1 日本に居ながら言語や文化を異にし、なおかつ特別な支援が必要な子ども、24人（累計）に対して、放課後の居場所と学習の場を提供することによって、
 - (1) 公立学校在籍者：ストレスが癒され、学校生活を生き生きと送ることができた。
 - ・ 放課後を狭いアパートの一室で留守番をして過ごしていた女兒が、明るさを増し、小学校でも積極的に活動するようになった。
 - ・ 知的、情緒的に障害を持つ男児が、放課後交流クラブで仲のよい友達ができたことにより、小学校でも心の安定が保てるようになって、学習意欲も高まった。
 - (2) ブラジル人学校在籍者：公立学校在籍者との交流を通して、日本語に慣れ、進んでコミュニケーションを図ろうとする姿が見られた。
 - ・ 外で進んであいさつを交わし、片言でも臆することなく話しかける姿が見られるようになった。
 - (3) 不就学者：就学への意欲を持ち、適切な就学相談と就学準備教育を受けることができた。
 - ・ ブラジル人学校で学ぶ子どもと共に生活するなかで、同様のテキストを使って勉強をしたいという意欲を示すようになった。
 - ・ 日本の公立学校へ編入させたいという希望を持つ保護者に、子どもの能力に応じて就学ができるよう相談に乗ることができた。
- 2 生徒数減少に悩むブラジル人学校を活性化させ、子どもの居場所の再生を図ることによって、
 - (1) ブラジル人学校職員や後援者：子どもの居場所作りのための一層の自助努力をしようという構えが生まれてきた。
 - ・ 利益を度外視しても、障害を持つ子や経済的に恵まれない子を学校に受け入れようとする姿勢を、校長以下全職員や関係者が持つようになった。
 - (2) ブラジル人学校を去り、日中や放課後を留守番で過ごす子ども：追跡調査を続け、ブラジル人学校の居場所に復帰することができる途をつけることができた。
 - ・ 帰国する子どもが多くなり、ブラジル人学校に復帰できる子どもは限られたなかで、復帰できない場合でも、日中や放課後の過ごし方の継続的な調査を通して見守り続けることができた。
 - (3) ブラジル人学校の正規の生徒の保護者：特別な支援が必要な子どもに対する理解が深まり、自分たちの学校は特別支援ができるという誇りをもった保護者を中心にして、学校を支え合って守り立てていこうという姿勢が見えるようになってきた。
 - ・ 一部の保護者を除き、正規の授業料を進んで支払う保護者が増えてきた。
 - (4) 地域：学習発表会や他団体と連携した「こどもの美術交流展」を開催することによって、ブラジル人学校をはじめとした、子どもの居場所の存在意義が認められた。
 - ・ 地域のコミュニティーセンター関係者や中学生などに、ブラジル人学校が子どもの居場所としてなくてはならない存在だということを理解していただくことができた。

3 日本の公立学校に馴染めない園児・児童生徒に対して、より望ましい就学を提供することによって、

- (1) ハンディを持つ子ども：異言語異文化のストレスから解放されて、より適切な自己実現の可能性が開かれた。
 - ・ 生まれつき片目で言葉も不自由な日本人の男児（母親はフィリピン人）や、知的障害と情緒障害の日本人の男児（母親はブラジル人）など、ハンディを持つ子が入りし、楽しく過ごした。
- (2) ハンディを持つ子どもの保護者：負担が軽減された。
 - ・ ハンディを持つ外国籍児童の保護者に、母国語で相談に乗り、子どもを母国の環境で育てる方途を与えるができた。そのことは子どもだけでなく保護者にとっても大きな負担の軽減となった。
- (3) ハンディを持つ子どもと健常な子ども：自言語自文化のままで、放課後を共に過ごすことによって自然な交流を図ることができた。
 - ・ 子どもにとって、友だちとの出会いの場は大切であった。これまで仲のよい友だちができなかった男児（知的障害と情緒障害）が、一才年下の男児と仲よくなって、楽しく語らいながら、競ってポルトガル語を学ぶ姿がみられた。

4 協力して、ブラジル人学校の特別支援教育を整備することによって、

- (1) ブラジル人学校職員：特別支援コーディネーターを核として資質を高め合うことができた。
 - ・ 月々のざっくばらんな研修会を通して、育て難い子にこそ目と手をかける職員態勢が生まれた。
- (2) ブラジル人学校保護者や学校職員、後援者ら：外部講師による研修会や教育講演を通して、特別支援教育について理解を深めることができた。
 - ・ 育て難い子は、言葉の壁を度外視して日本の公立学校へ入れるか、本国へ帰すかという考え方のなかで、ブラジル人学校でも育てられるという考え方が生まれ大きな希望になっている。
- (3) 生徒：より深い児童理解の下に、安心して学校生活を送ることができると評判になった。
 - ・ アサヒポルトガル語教室の子どもは互いに仲がよく、話し合っで学んでいると評判になった。

■実施の経過

平成21年

6月

「特別支援コース」「放課後交流クラブ」開設、研修会（13日）、学校組合による不就学児や特別に支援が必要な子どもの調査開始、公立校・園内や市の就学指導委員会の情報収集、就学相談開始

7月

「特別支援コース」「放課後交流クラブ」開設、研修会（13日）、学校組合による不就学児や特別に支援が必要な子どもの調査開始、公立校・園内や市の就学指導委員会の情報収集、就学相談開始研修会（4日）、保護者説明会・講演会（24日）、学習発表会（夏祭り）（19日）、水泳教室（31日）

8月

水泳教室（7日）、夏休み教室（公立学校の夏休み期間は、放課後交流クラブの子どもが終日過ごす）、研修会（15日）

9月

校内・市就学指導委員会の情報収集と就学相談、研修会（5日）

10月

研修会（16日）、校内・市就学指導委員会の情報収集と就学相談、国民文化祭 in 菊川ジュニア創造祭美術展・ワークショップ参加（31日）

11月

国民文化祭 in 菊川ジュニア創造祭美術展・ワークショップ参加（1日）
研修会（7日）

12月

研修会（12日）、学習発表会（クリスマス）（25日）、就学相談

平成22年

1月

研修会（16日）、校内・市就学指導委員会の情報収集と就学相談

2月

研修会（5日、13日）、交流発表会「つくりえと・こどもの美術交流展」（20日、その後28日まで展示）、交流発表会反省会（28日）

3月

就学相談、研修会（13日）、事業のまとめと報告書の作成、体育発表会空手大会（14日）、事業のまとめと報告書の作成